

「Eco列車でいこう！」～第116回～ ぷらっと北海道！

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行を応援していくコーナーです！) 

2月9日(土)。東区の山の下埠頭にクルマを置いて、新日本海フェリー「あざれあ」(14,173トン、定員600名)に乗り込む。船内は団体客でにぎわっている。お昼の12時、北海道小樽に向けて出港した。

今回は「ぷらっと北海道」という企画乗船券を利用する。「新潟→小樽」の乗船券と、その日の夕方の「小樽→新潟」の乗船券がセットで10,000円だ。延泊することはできないが、安価に船旅を満喫できる。

まずは指定されたベットで旅装を解く。寝台内に携帯充電用のコンセントが用意されているのがありがたい。足を伸ばしてらくらく眠ることができるし、ロールカーテンを下せばプライベートが保たれる。一晩を過ごすには十分なスペースだ。

船内中央にある3階ラウンジで昼食にする。レストランもあるが、乗船前にスーパーで調達してきたお惣菜や寿司をつまんでビールを飲む。図書館から借りてきた「登山の本」や「札幌のガイドブック」を読みながら、のんびりとした時間を過ごした。

時間を持って余しているのので5階にある大浴場に行ってみる。シャンプー、ボディーソープ完備なので、タオルを持参していけば良い。サウナで汗を流し、寒風吹きすさび露天風呂への扉を開ける。水平線を見ながらの風呂は気持ちがいい。ただし気温は氷点下。肩まで浸かって、なかなか動けない。

ベットに戻って横になり、しばらくまどろんだ。波は約2メートル。少し揺れるが、眠るのにはちょうどいい。目覚めると夕方になっていた。

スーパーで食料をたくさん買い込んだので、まだサラダや揚げ物が残っている。売店から「余市ワイン」のハーフボトルとチーズを買ってきて、夕食にする。2度目のお風呂に入って、10時就寝。

翌朝、4:30小樽着。あらかじめフロントに告げておいたので、6:00まで船内で休憩できる。

さて、北海道上陸だ。帽子、ネックウォーマー、レックウォーマー、手袋、マスク…。防寒具をたくさん着込んだので、マイナス9度でも、それほど寒くはない。フェリー埠頭から小樽築港駅まで約20分歩いた。

「石原裕次郎」の等身大ポスターを見ながら、電車に乗り込み、約30分で札幌着。

「大通公園」まで地下街を歩いて、地上に出ると「札幌雪まつり(大通)会場」だ。大規模な雪像や屋台が並び、まだ早朝。人も少なく、氷の像が並びすすきの会場とともに、ゆっくりと見学した。

途中、二条市場に寄り道し、にぎり寿司の朝食。新鮮でおいしかった。その後、地下鉄を乗り継ぎ、サッポロビール博物館へ向かった。博物館の中は外国人客で一杯。ひととおり見学した後、ビアホールでビール飲み比べセット(600円)を注文し、「クラシック」「黒ラベル」「開拓使麦酒」のできたての味を楽しんだ。

札幌駅までバスに乗り、昼食は札幌名物「スープカレー」。道内産の野菜をふんだんに使ったおいしいカレーを食べ、お土産を買ったら、急ぎ足で小樽へ逆戻り。

17時出航のフェリーに乗って、翌日の12時の山ノ下埠頭に到着した。

北海道滞在はわずか10時間のあわただしい旅であったが、おいしいものをたくさん食べて、雪まつりも満喫した。なお今回使用した乗船券「ぷらっと北海道」は5月末まで販売している。(ゴールデンウィークは除く。)

